

■学校経営のポイント

国語世論調査 「言葉遣い」と「手書き」に注目

小島 宏

今回は、2022年9月末に公表された文化庁「国語に関する世論調査」(令和4年1～2月、16歳以上の個人3,579人に実施)の結果の概要に基づき、学校における配慮について考察する。

情報機器の影響

「情報機器の普及で受けると思う影響」について、89.4%が「手で字を書くことが減る」、89.0%が「漢字を手で正確に書く力が衰える」と回答している。

パソコンでローマ字(平仮名)入力をすれば漢字に変換してくれるので、漢字は読めるが、手書きでは曖昧になるという現象である。

手書きの大切さ

平成26年度と同調査では“手書きの習慣を今後も大切にすべき”と91.5%が回答していた。これまでも、漢字などは、ノートに繰り返し書くことで学んできた人が多いと思われる。“手書きは脳の活性化と漢字の習得に寄与する”(平成22年文化審議会答申)ということである。

私は、ある大学の教職課程で100名程度の学生に数学教育の講義をしたことがある。その際、手書きでノートを取らず、板書をスマホで撮影する学生が多かった。一計を案じ、講義を15分早くやめ、その時間に学んだことをA4一枚に簡単にまとめて提出させた。そして、それをもとに出席確認と評価をし、テストをやめた。次第に、学生のまとめが充実するとともに、漢字の間違いが減少したことを体験している。

また、1人1台端末を活用した授業実践で知られたある公立小学校で、低学年の授業を参観した際、子供たちが「先生、鉛筆で書きたいよ!」と訴えていたことを思い出す。

デジタルと手書きを二者択一とせず、両者の特性を生かし、効果的に採用していくことが必要である。

言葉は世につれ変化するもの

かつては、消耗を「しょうこう」と読んでいたが、誤った読み方の人が増え現在は「しょうもう」も正しい読み方となったという例もある。重複も「ちょうふく」から「じゅうふく」と読む人が増えているので、同様に変わるかもしれない。

言葉は変化するものであると分かっているつもりであるが、告る(告白する)、チンする(電子レンジで加熱する)などは気になる。が、スーツ(背広)、さぼる(怠ける)、パスタ(スパゲティ)などは、既に定着している。

学校教育での配慮

言葉は変わるものであるというものの、例えば次のような表現は、国語科のみならず各教科等での書く練習の際には、基本通りに指導すべきではないだろうか。()内は正しい使い方、数値は使っている人の割合%である。

ちがくて:20.2(そうではなくて)、あの人みたいになりたい:24.4(あの人みたいになりたい)、なにげにそうした:47.1(なにげなくそうした)、半端ない:46.4(中途半端でない)、ぶっちゃけまずい:41.4(正直なところまずい)など。

校長のリーダーシップ

校長や教師は、正しく適切な言葉遣いについて指導するとともに、そのモデルとなりうることを自覚して率先垂範する必要がある。

また、校長は言葉遣いに関心を持ち、朝礼講話、各種便りの巻頭言などにおいて十分配慮することを心がけたいものである。

(こじま・ひろし=元東京都公立小学校長・(公財)豊島修練会顧問)

●令和の学校マネジメントに最適の手法!《12/26 発売、予約受付中!》

校長がOODA(ウーダ)ループで考えたら学校の課題がみるみる解決した

教育開発研究所【編集】 四六判/定価 2,310 円

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <https://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>をご利用ください。

